



ネプライザーは周囲から丸見えにならないようにパーティションで仕切るなど、細やかな心遣いにほっとする

待合室の奥には、隠れ小部屋のようなマンガコーナーもあって飽きない。院長のお気に入りのシリーズが並ぶ



白や木目を基調とした落ち着いた外観は、洗練かつ親しみに溢れる。玄関から内部には温もりを感じるオレンジカラーがアクセント



受付からも目が届く待合室の一角に設けられたキッズコーナー。子ども達が飽きないようにいろいろなオモチャを揃えている

ガラス張りの待合室は明るく清潔感がある。レンガの壁や吹き抜けになった勾配天井も居心地の良い空間を演出

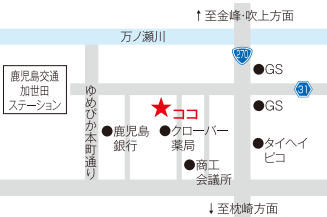
受付のディスプレイではリアルタイムに待ち人数・時間を表示。待ち時間が長いときは一度外出し用事を済ませてくれることも可能



院長 福岩 達哉

Profile

鹿児島大学医学部卒業
●医学博士
●日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
●日本気管食道科学会認定専門医
●日本がん治療認定機構がん治療認定医
●日本アレルギー学会認定専門医
●日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医



DATA								
診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	○	△
14:00～18:00	○	○	○	○	△	☆	△	△

☆土曜日午後17:00まで受付です。
※木曜日は外来日帰り手術、特殊検査（造影CTなど）、医療相談（セカンドオピニオンなど）を行います。（完全予約制、外来休診）
※木曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■住 所／南さつま市加世田本町22-5
■駐車場／あり
■アクセス／谷山ICから車で30分
枕崎市街から車で25分
鹿児島交通加世田ステーションから徒歩2分



深層の病変を検査する全身用マルチスライスCTで撮影した画像は、診察室の患者さん用モニターでも確認できる



0.2ミリ単位で照射するレーザー鼓膜切開装置は中耳炎等の治療で使用。患部は診察台のモニターに映し出される



アレルギー性鼻炎の治療に使うアルゴンプラズマ凝固装置は強い止血効果が望まれ、従来の治療よりも短時間の治療を目指す。中学生以上が目安

や中耳炎のほか、咽喉頭と密接な関係にある胸部まで検査。遠隔画像診断センターを活用し、放射線科専門医によるCT読影補助システムも導入している（遠隔画像診断の料金は同院で負担）。鹿児島大学附属病院や鹿児島市立病院、鹿児島医療センターとも連携体制を取っていて、病診連携で患者さんをサポート。さらに福岩院長は、全身のがん治療に対する医療技術の向上のために、がん治療認定医の資格も取得した。

**大人とは違う病態を見せる
小さな子どもたちも優しくケア**

小さな子どもたちは具合が悪くなくても、どこがどのように不調なのかうまく伝えられない。また小児の中耳炎や副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎などは病態が子どもと成人では異なっているため診断に難しい面がある。ちよとしたすきに一刻を争って治療を受けなければならぬような緊急事態に陥ってしまうことも想定される。近年ではアレルギー性鼻炎の低年齢化も問題になってきた。同クリニ

ックでは小児特有の耳鼻咽喉科疾患を専門に扱う「小児耳鼻咽喉科」を開設。さまざまな症状に耳を傾けながら内視鏡などを使った診察を行い、総合的に診断でできるよう努める福岩院長は、「子を持つ親の気持ちも忘れずに、人に優しい診療を行いたい」と話す。

**学会認定専門医による
アレルギー性鼻炎の日帰り手術**

国内外の症例を参考にした免疫・アレルギーの基礎的研究の経験から、スギ花粉やハウスダストなどが原因となるアレルギー性鼻炎の治療にも積極的に取り組む福岩院長は、アレルギー全般を専門とする日本アレルギー学会の認定専門医も取得した。薬物療法のほかにも、アルゴンプラズマ凝固装置を導入し、鼻粘膜を焼灼することによってアレルギー反応を阻止するアレルギー性鼻炎の日帰り手術を行っている。ちなみに花粉症の場合は、花粉の飛散時期（スギ花粉症は2～4月）には受けられないのだそう。詳しくは気軽に尋ねてみよう。



プライバシーを尊重して個室になった診察室は温かみのあるアースカラー。診療業務をスムーズにする電子カルテも導入した

医療法人エターナル

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック

0993-53-3387 FAX0993-53-3055 <http://www.fukuiwa-clinic.com/>

南さつま市加世田本町

プライバシーを尊重した診療がモットー 笑顔&ホスピタリティあふれるクリニック。



鼻やのどを観察する電子内視鏡システムは分光画像処理FICEも搭載。見つけにくい微小がんの早期発見を目指す

**がん治療認定医が目指す
頭頸部がんの早期発見・早期治療**

耳・鼻・のど・めまいなどの疾患を主とし、かぜの症状全般まで診療。0歳から100歳まで幅広い年代の患者さんのプライバシーとホスピタリティを第一に考えて、診察室は落ち着いた個室になっている。カウンセリングや補聴器外来にも、リラックスした雰囲気個室を用意。それぞれの症状については、内視鏡画像や電子カルテなどを使って丁寧に説明し、必要な検査や治療についても分かりやすく説明してくれるが、疑問点があれば何でも気軽に相談に乗ってくれる。福岩達哉院長はこれまで鹿児島大学附属病院の耳鼻咽喉科において、頭頸部外科や気管食道外科の治療（舌がん・咽喉頭がん・唾液腺がん・甲状腺がん）を専門としてきた。腫瘍切除と再建手術をどちらも手がける中で、「もっと早くがんが発見できてい

れば」「もっと早期に治療を開始していたら」と痛感することが多々あったと話す。そこで一人でも多くの患者さんを救いたいとの思いから平成20年にクリニックを開設。頭頸部がんの早期発見・早期治療を掲げ、がん専門施設と同等の診断水準を目指している。日常生活では見逃しがちなちょっとしたのどの違和感や舌の痛みには、がんの疑いもあるのだそう。そのような症状を診療する「異常感症外来」では、がんの鑑別診断や、異常感症の原因となりうる多くの疾患の精査・診断ができるよう努めている。高水準のがん診療を行いたいと、頸部超音波診断装置などの設備も整えた。分光推定技術を応用した咽喉頭用電子内視鏡システムは、光の波長を7色に分けて粘膜下の血管を強調し、早期がんを発見することを狙う。全身用マルチスライスCTスキャンは、がんの検索以外にも副鼻腔炎